

校納金照会 Webシステム

「TOMAS-PS学費システム」に取込むデータをWebにアップロードするだけで保護者がオンラインで校納金の明細を閲覧できる。

成果

誤配・印刷ミス削減！

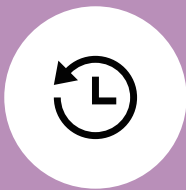
年間作業時間

60時間削減！

生徒1300人の校納金照会をデジタル化 既存システム活用でコスト・作業量削減

中村学園女子高等学校は1960年に「知」「徳」に優れた心豊かな女性の育成を目指し創立。これまでに文部科学省の「スーパー食育スクール(SSS)」「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」の認定を受け、2020年には新たに「ワールド・ワイド・ラーニング(WWL)コンソーシアム構築支援事業カリキュラム開発拠点校」の認定を受けており、先進的な教育を行なっている。またICTの活用にもいち早く取り組んでおり、時代に進化に対応できる自立した女性の育成に取り組んでいる。

Summary



■ 背景 ■

1. コスト・業務量の削減

毎月、校納金明細・口座引落日を紙に印刷し、担任経由で約1300人の生徒に配布。コスト及び担当職員の業務量削減が求められた。

2. 個人情報漏洩リスクの低減

個人情報保護のため印刷ミス・誤配防止を強化。紙への印刷・手渡しという従来の方法を見直した。

3. 保護者サービスの充実

私立学校として重要な保護者へのサービス向上のため、保護者にとって、簡単に利便性の高い方法の検討が必要となった。



■ 成功ポイント ■

1. 学費システム開発会社に相談

「TOMAS-PS学費システム」開発元のシティアコムに相談。学費に関する業務全体の効率化を図った。

2. 既存システムを活用

TOMAS-PS学費システムと学習・連絡用アプリという既存の2つのシステムを連携し、コストを抑え、シンプルで使い勝手のよい運用を重視した。

3. 保護者の負担軽減

保護者へのインターフェースとして、既に導入している学習・連絡用アプリを活用。URLが混在せず、保護者が使いやすいように工夫した。



■ 効果 ■

1. コスト・作業量削減

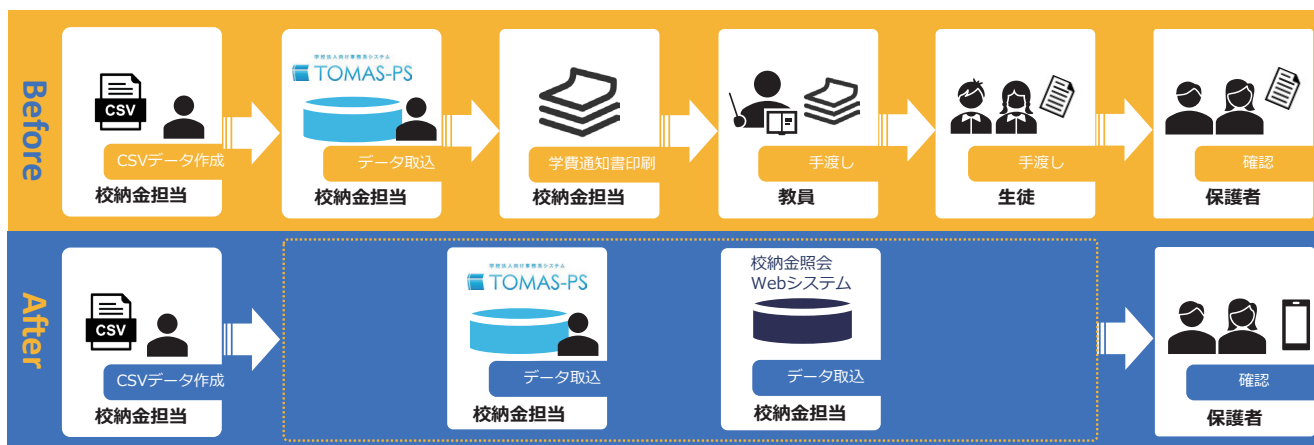
Web照会によって紙や印刷代等の経費削減、及び担当職員の業務量軽減に成功。誤配の不安もなくなった。

2. 利便性向上

「TOMAS-PS学費システム」をはじめ既存のシステム、ツールの汎用性が拡大。生徒や保護者への連絡手段に活用するなど、新たな展開につながった。

3. 信用・信頼の向上

Web上であれば、過去の校納金明細も簡単に確認できる。校納金に関する保護者からの問い合わせが減り、信頼獲得につながった。



全生徒に校納金明細を紙で配布 経費・業務量増加、誤配の不安も

中村学園女子中学校・高等学校では、毎月約1300人の生徒の校納金額と明細を紙に印刷し、担任から生徒に渡していた。同校では、在籍コースや奨学金、就学支援金、模試代などによって生徒ごとに金額が異なるため、月ごとに取ってもらっている。そのため、毎月末に担当職員の業務量が増加し、紙や印刷コストもかさむ。印刷ミスや誤配の懸念もあった。個人情報を守る観点からも細心の注意が求められ、業務の改善が急務となっていた。同校が紙に代わる第一の方法として考えたのは、保護者へのメールだ。だが、メールは誤送信のリスクが大きく、またスマートフォンはパソコンからのメールを拒否する設定傾向にある。

次に考えたのはWebによる照会だ。同校は「TOMAS-PS学費システム」を活用していた。「TOMAS-PS学費システム」では、生徒ごとに毎月異なる校納金の明細を「徴収台帳」で管理し、自動引き落としなどの徴収業務を行っている。この「徴収台帳」をWebにアップロードし、保護者が閲覧できる仕組みを作れないか。担当の宮本氏は、開発元のシティアスコムに相談した。

協議を重ねた結果、シティアスコムは自社が開発した情報発信のためのモバイルアプリ「CloudCommunity」をベースとし「校納金照会Webシステム」を新たに構築した。これは、「TOMAS-PS学費システム」と連携する校納金明細（徴収台帳）のデータをCSV形式で取り込み、Web上で保護者が確認できるというものだ。これを利用すれば、学校は業務を削減し、コストや誤配という課題を解決できる。一方で保護者はいつでもどこでも金額を確認できるようになり、学校から保護者へのサービス向上につながる。

既存のツールを応用した シンプルなオンライン照会

さらに、宮本氏には「学校からの連絡は、1つの窓口で集約したい」という思いがあった。同校では、既に担任と家庭をつなぐ学習・連絡用アプリを導入している。学校からの連絡が複数のアプリやWebサイトとなれば、保護者にとって情報管理が煩雑となり、重要な連絡を見落とすことにつながりかねない。

双方で検討して新たな運用を確立させた。まず、Excelで生徒別に校納金明細を作成する。それをCSV形式で取り出し、「校納金照会Webシステム」にアップロードする。学習・連絡用アプリでその旨を通知し、通知には「校納金照会Webシステム」のURLを掲示する。保護者は指定されたURLにアクセスし、校納金明細や引落日などの情報を入力する。学校側は「校納金照会Webシステム」用に作成したデータを「TOMAS-PS学費システム」に取り込み、自動引き落としを行う。

「使い慣れたアプリへの通知」という小さな運用の工夫であるが、保護者の負担を最小限にし、確実に情報を届けることを実現。保護者はいつでもどこでもスマホ等で金額を確認できるようになり、引落日の失念等も減少して保護者からの問い合わせは減った。さらに言えば、ツールを組み合わせることで大規模なシステム改修などを行うことなく、導入費用も抑えることに成功した。



中村学園女子中学校・高等学校
事務室係長 宮本 啓介氏

保護者と学校、より確実に スムーズな連携を目指して

同校では次の展開として、この「校納金照会Webシステム」を活用した保護者向けのデジタル伝言板を考えている。学習・連絡用アプリでは、主に担任がクラスや学年単位で情報を発信している。一方、「校納金照会Webシステム」上では、個別に直接保護者に伝達できる。担任や生徒を介さずに保護者と直接、奨学金や就学支援等の申請受付や連絡ができれば、連絡漏れ等を防ぎ、学校から保護者へのサービス向上とともに、結果的に同校の業務削減にもつながる。他にも幅広い活用法が考えられ、シティアスコムとの検討・開発が続いている。



中村学園女子中学校
中村学園女子高等学校

〒814-0103 福岡県福岡市城南区鳥飼7-10-38
<https://nakamura-njh.ed.jp>